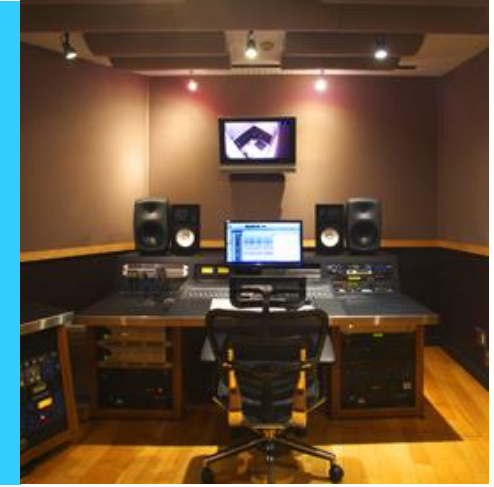




Support The Hospitality

表舞台を輝かせる真のおもてなしを極めて



2019年9月期第2四半期決算説明会

2019年6月6日 日経茅場町カンファレンスルーム
株式会社CSSホールディングス

東証 JASDAQ
証券コード 2304

<https://www.css-holdings.jp/>

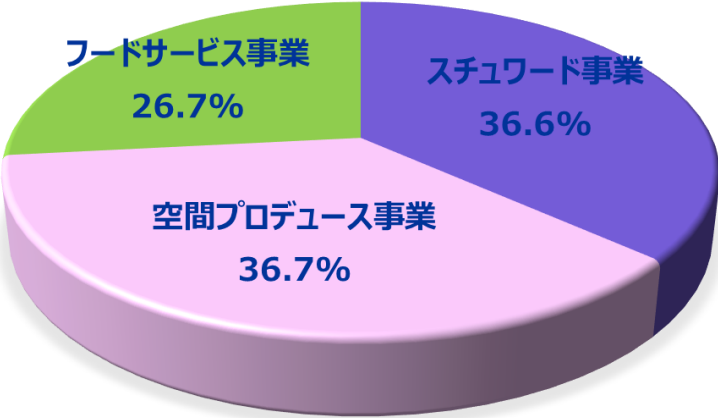
2019年9月期第2四半期決算

【会社名】	株式会社CSSホールディングス
【本社所在地】	東京都中央区日本橋小伝馬町10番 1 号
【設立】	1984年（昭和59年） 12月
【資本金】	393百万円
【発行済株式総数】	5,285,600株
【決算期】	9月
【代表者】	代表取締役社長 林田 喜一郎
【連結従業員数】	6,122名（うち、パート・アルバイト5,528 名）（2019年3月31日現在）

連結業績(P/L)

(単位：百万円)	2018年9月期 第2四半期	2019年9月期 第2四半期	差 異
売上高	8,968	9,880	912
営業利益	249	446	196
経常利益	261	438	176
親会社株主に帰属する四半期純利益	148	17	▲ 131
1株あたり当期純利益(円)	29.42	3.38	▲ 26.04

(単位：百万円)	2019年9月期第2四半期		差 異
	計画値	当 期	
売上高	9,212	9,880	667
営業利益	217	446	228
経常利益	186	438	252
親会社株主に帰属する四半期純利益	119	17	▲ 102
1株あたり当期純利益(円)	23.71	3.38	▲ 20.33



 Point

全てのセグメントで売上は拡大した。
営業利益及び経常利益についても前年
比・計画比で上回る事となった。一方、親
会社株主に帰属する純利益についてはフー
ドサービス事業に係る減損損失計上により、
前年比・計画比で大きく減少した。

【特別損失の計上について】

特別損失については、ヤマト食品(株)の下期
の大型失注に伴う業績悪化によるものであ
り、252百万円の減損損失を計上しており
ます。

連結業績(B/S)

(単位：百万円)

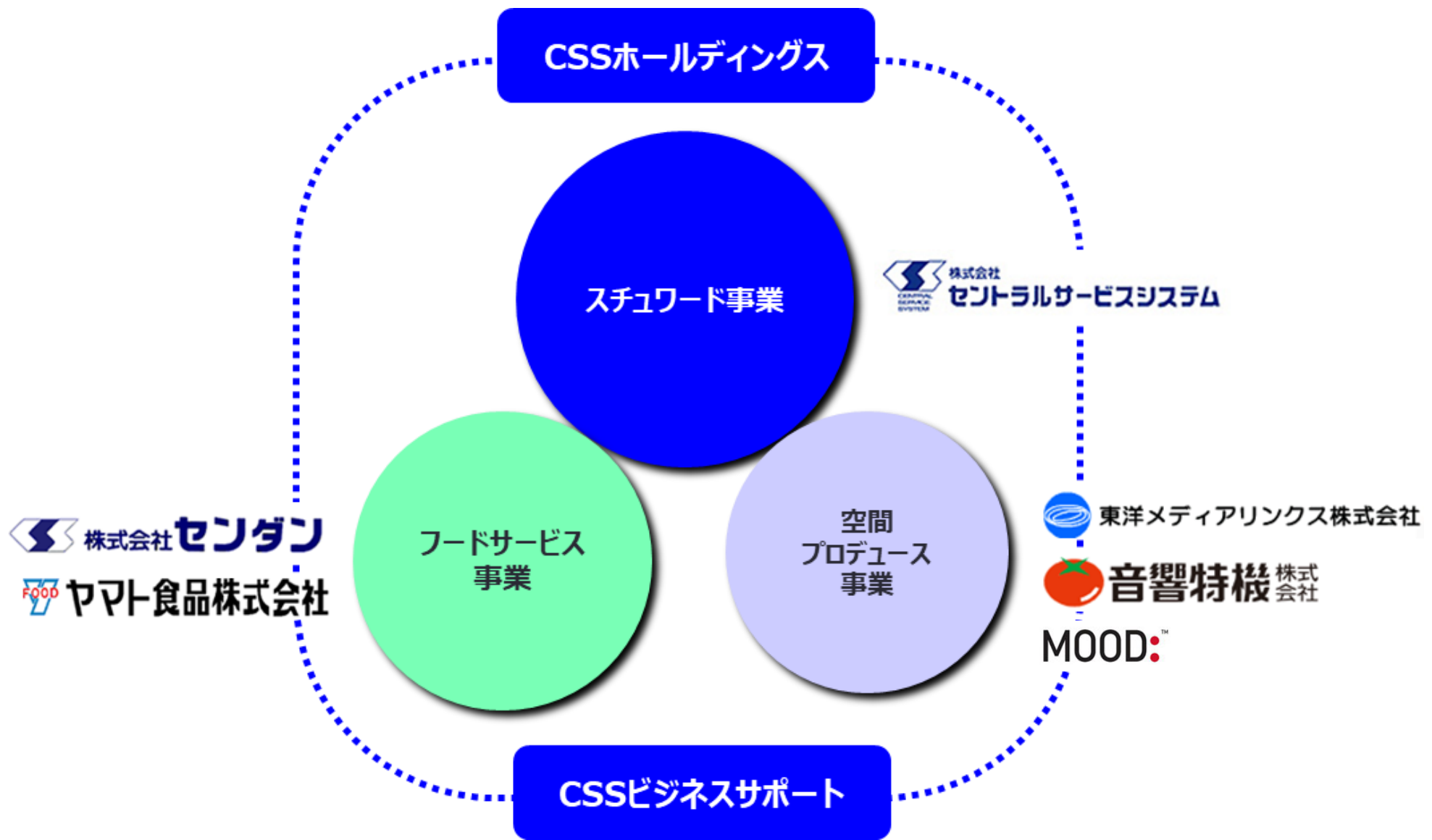
	前期末 2018年9月末日現在	当期末 2019年3月末日現在	差 異
資産合計	7,026	7,188	162
流動資産	3,736	4,235	498
固定資産	3,289	2,953	▲ 336
負債合計	4,197	4,426	229
流動負債	3,080	3,412	331
固定負債	1,116	1,014	▲ 102
純資産合計	2,829	2,761	▲ 67
株主資本	2,697	2,662	▲ 34
評価・換算差額等	131	99	▲ 32
負債・純資産合計	7,026	7,188	162
自己資本比率	40.3%	38.4%	▲1.9P



Point

売上増に伴う受取手形・売掛金増による流動資産の増加、ヤマト食品(株)の減損に伴う有形固定資産、のれん、投資不動産の減少による固定資産の減少。売上増に伴う支払手形・買掛金増による流動負債の増加、固定負債は返済の進行により減少。純資産は配当及び有価証券評価差額額の減少により減少。

(単位：百万円)	2018年9月期 第2四半期	2019年9月期 第2四半期	差 異
営業キャッシュフロー	118	17	▲ 101
投資キャッシュフロー	▲ 49	▲ 7	42
財務キャッシュフロー	50	▲ 106	▲ 157
現金及び現金同等物の増減額	119	▲ 96	▲ 216
現金及び現金同等物の期首残高	1,088	1,070	－
現金及び現金同等物の期末残高	1,207	973	▲ 233



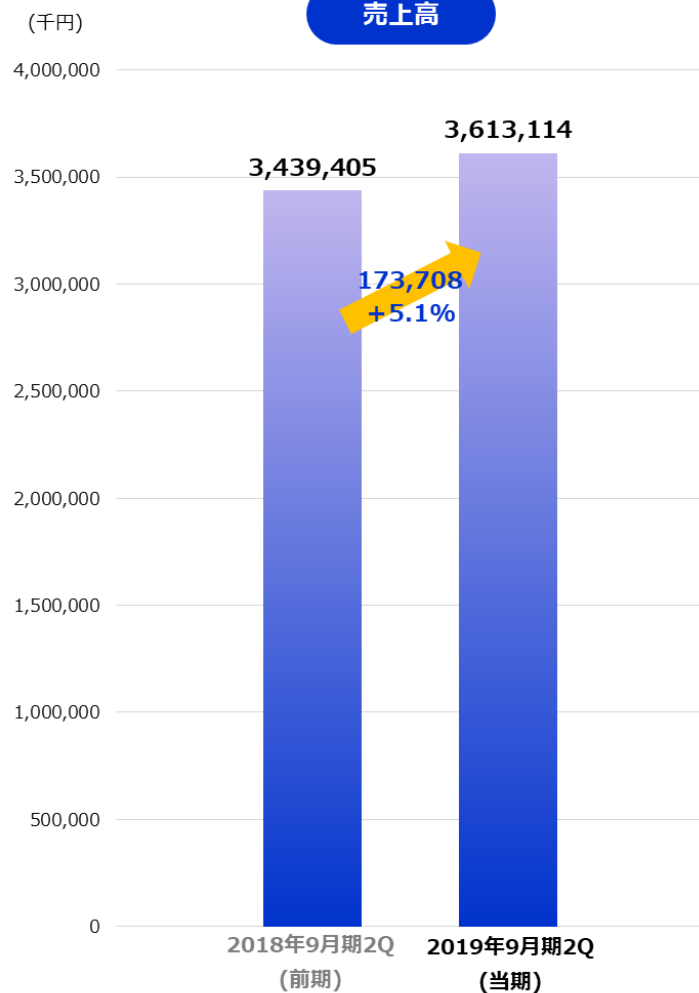
【売上高】

(単位：千円)	2018年9月期 第2四半期	2019年9月期 第2四半期	増減額	増減率
スチュワード事業	3,439,405	3,613,114	173,708	5.1%
フードサービス事業	2,570,032	2,631,957	61,924	2.4%
空間プロデュース事業	2,945,310	3,621,826	676,516	23.0%

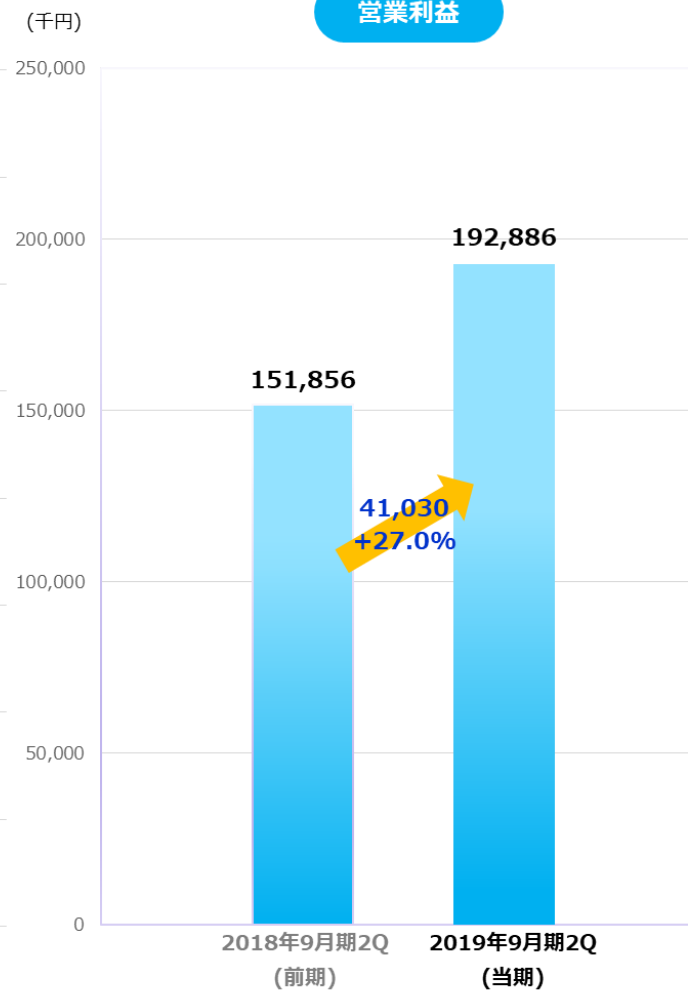
【セグメント利益】

(単位：千円)	2018年9月期 第2四半期	2019年9月期 第2四半期	増減額	増減率
スチュワード事業	151,856	192,886	41,030	27.0%
フードサービス事業	▲ 53,030	▲ 3,522	49,507	—
空間プロデュース事業	134,956	274,359	139,403	103.3%

売上高



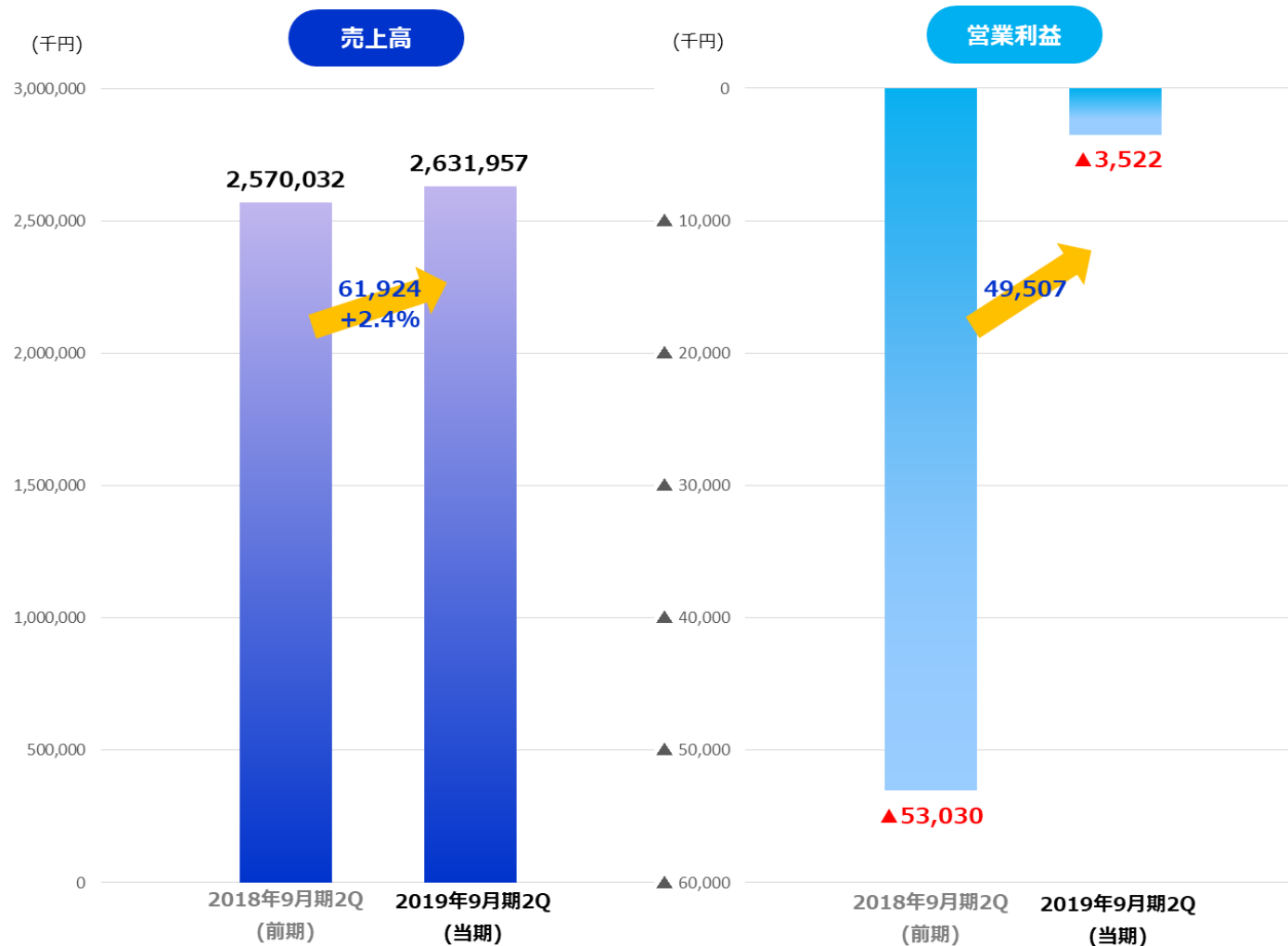
営業利益



Point

既存事業所が堅調、新規大型案件も売上増に寄与。
費用のうち、大きな割合を占める人件費を売上増に見合った範囲でコントロールできたことで利益も拡大した。





Point

従業員食堂及びレストランの運営受託に加え、食材販売事業も堅調に推移、新規案件も加え売上は増加。
原価と人件費が適正に管理されたことで損失額縮小。





Point
金融機関への大型件名の納入、新しい顧客開拓、新商材の拡大、音響機器については海外製品の販売拡大により売上増加。
販売管理費の効率的執行により大幅増益。

2019年9月期予想及び 今後の取組み

(単位：百万円)	上期実績	下期見通し	通期予想	計画値	差異
売上高	9,880	8,165	18,046	18,009	36
営業費用	9,434	8,272	17,707	17,742	▲ 35
営業利益	446	▲ 106	339	266	72
経常利益	438	▲ 102	336	231	104
親会社株主に帰属する当期純利益	17	▲ 67	▲ 50	141	▲ 191

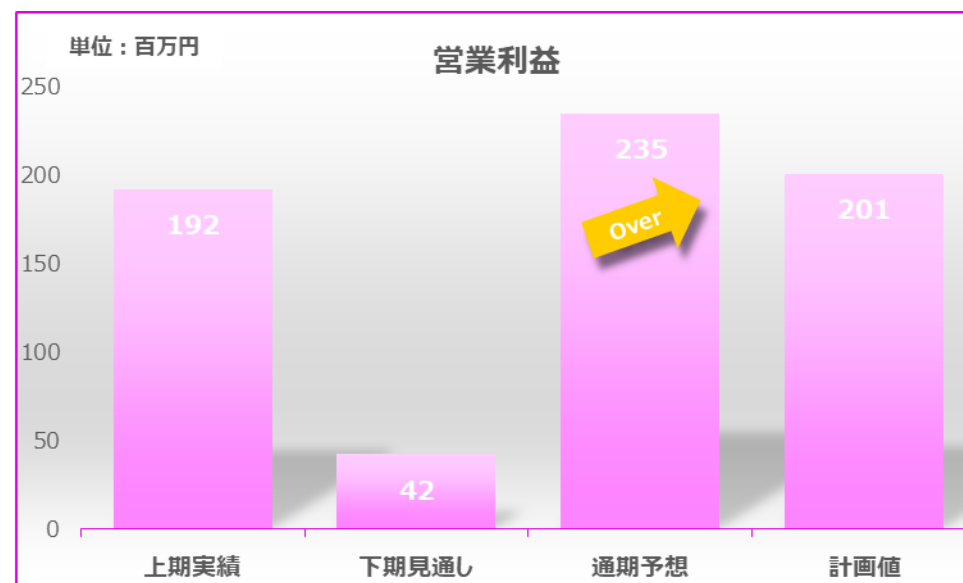
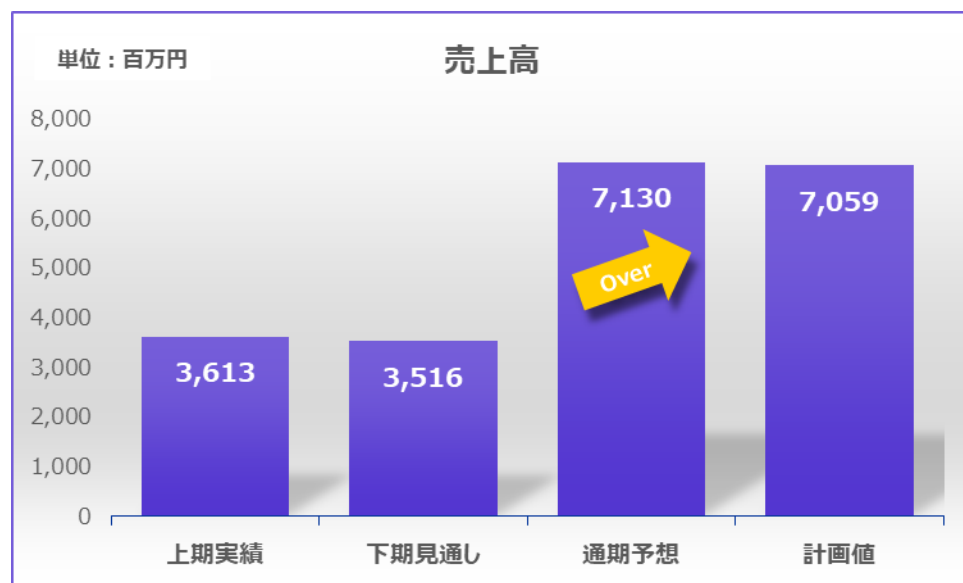
売上高	上期実績	下期見通し	通期予想
スチュワード事業	3,613	3,516	7,130
フードサービス事業	2,631	2,428	5,060
空間プロデュース事業	3,621	2,205	5,827

営業利益	上期実績	下期見通し	通期予想
スチュワード事業	192	42	235
フードサービス事業	▲ 3	▲ 40	▲ 44
空間プロデュース事業	274	▲ 82	192

 **Point**
下期については、全般的に上期を下回る予想となっているものの、通期では売上はほぼ計画値、営業利益・経常利益については、上期の実績をもとに、前年及び計画値を上回る水準を維持する。
しかしながら、フードサービス事業の損失拡大が予想されることから、親会社株主に帰属する当期純利益については通期で損失計上となる見込み。

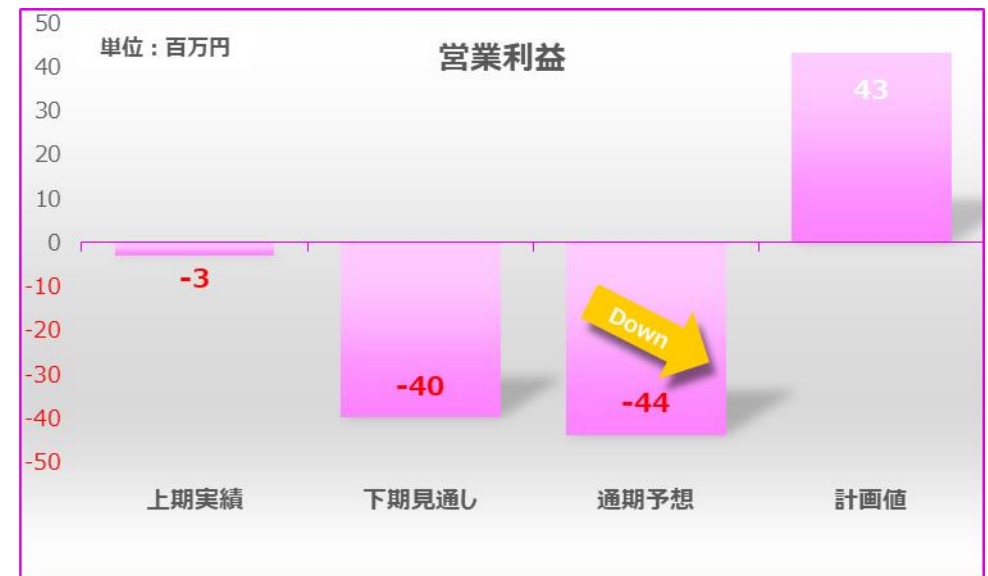
下期に費用は増加するものの、売上を確実に確保、通期では計画値以上の利益を確保

- 売上については、下期の新規案件の獲得も含めて通年で計画値以上を確保。
- 人事施策の実行等により費用が増加するものの、通期では計画値以上の利益を計上。
- 通期では、売上高71億円、営業利益2.4億円を予想。



食材販売の大型失注により売上減少・損失拡大、受託給食・レストラン事業に注力

- 既存事業の売上を守り、受託給食・レストラン事業の新規案件の獲得を目指す。
- 食材販売の大型失注に伴い、配送体制、要員体制の見直しを図る。
- 通期では、売上高50億円、営業損失44百万円を予想。



上期の好業績をベースとして、下期の費用増を吸収、通期では計画値以上を予想

- 営業件名の受注率を高め、売上については確実に積上げる。
- 在庫管理の効率化を図るべく商品センターの移転を実施、一時的に費用拡大。
- 通期では売上高58億円、営業利益は1.9億とし計画値を上回る水準を予想。



本資料についてのご注意

本資料は参考資料であり、正確な決算数値等は当社決算短信および有価証券報告書をご参照願います。また、本資料に記載の業績に関する見通しや計画等には、不確定要因を含んでおります。実際の業績などは、当社の事業を取り巻く経済情勢等の様々な要素により異なる可能性があることをご承知おき願います。

IRに関するお問い合わせ

株式会社CSSホールディングス グループ経営管理室

TEL 03-6661-7840

FAX 03-6661-7841

E-mail hld-info@css-ltd.co.jp